

だの、そんなもの斗リツラリと並んで居る。この有様を見た父君の驚きは無理もない。實はエチ君、家を出る時、神妙らしく嚴父に向つて、之れから新時代の店には、どうしても簿記學が必要だからと説き付け、簿記學校に行く様な顔をして上京後茲に一年、首尾能く今日まで遣つて來たが、天網疎にして漏さず遂に今日突然の臨檢に萬事休した譯である。室に在るものは繪の道具と俳句の書物ばかりで簿記棒一本もない、エチ君まさかそれは皆人の物ですとも云ひ兼ねて絶體絶命、一々白狀に及んでしまつたと云ふ事である。それかあらぬか其後暫らくして、エチ君は郷里に歸つてしまつたが、今は矢張り家業を逃れて某市に好きな文筆を振つて居るさうである。男生徒の記述は先づ以上で盡きた。女生徒の方には別に取り立て、話す様なのは無かつたが只一人、二十四五の不得要領な女が居た。何を以て身分の人が、家が何處に在るのか分らない、皆の人々から常に不思議がられて居た、顔も日本人の様では無かつた、何でも單身露西亞までも行つた事があるさうで、日露戦争が起つた時、歸朝して敦賀に上陸したら、露國の軍事探偵と間違へられて困りましたなどと話した事があつた。この女はその内講習所に來なくなつたが、未だに疑問が解けないと主人は言つて居る。其他には辯護士の令嬢が一人、石版屋の娘さんが二人、それ丈であつた、その人々達も男生徒の様に永續は仕なかつた。先づ以て三崎町時代に於ける原人種の話はれ之れ丈として筆を擱く。

(七月二日稿)

報 告

松本水彩畫會の趣意

○本會は松本水彩畫會と稱す○本會の趣旨を賛成する者は何人と雖も會員たる事を得○本會の目的とする所は會員相互に水彩畫の研究をなし高尚なる趣味を養はんとするにあり○本會の目的を達んが爲めに毎月一回集會を爲し寫生、作品の互評等をなす。○適當なる時期を撰びて寫生旅行をなすとある可し○斯道の大家を招聘し講習會を開く事ある可し○春秋二回に展覽會を開き其作品を一般觀覽に供する事ある可し○會費は當分要せず事務所の所在を知らせ給へ(編者)

日本水彩畫會新會友

徳島縣海部郡川東村大字大里村	武田 國由
東京本郷區東片町百三十四	小林 高逸
兵庫縣多紀郡南河内村	森本 宗吉
大阪郡東成郡中本村大字中通	高見駒治郎

■大三島宮浦警察分署へ『みづゑ』を送られたしとのハガキ來りしも差出人の姓名なし(發送部)

■本號原色版『日ざかり』は、酷暑中の製版にかかり不結果に終りしと田中より申出あり、讀者諒焉。